

Info for Wood Export

# 海外市場情報



Vol. 2, No.9, 2007

2007年6月4日発行

## 韓国企業の海外植林状況

韓国は、海外植林を通して木材の安定した供給基盤を構築する計画を立てた。1993年にA社がオーストラリアで植林したことに始まり、2005年までに7社が、オーストラリア、ニュージーランド、ソロモン、ベトナム、インドネシア、中国、パラグアイの7ヶ国で海外植林を行い、これまでに117,590haを植林した(表1)。

表1 韓国企業の海外植林面積の推移

(単位: ha, %)

区分	計	A社	A社	B社	C社	D社	E社	F社	G社
		オーストラリア	ニュージーランド	ソロモン	ベトナム	インドネシア	インドネシア	中国	パラグアイ
合計	117,579	16,267	8,871	10,890	12,979	13,785	47,537	4,650	2,600
	100.0	13.8	7.5	9.3	11.0	11.7	40.4	4.0	2.2
1993	8,833	508				*8,325			
1994	2,373	1,000			498	650	225		
1995	2,905	854		413	1,124	311	203		
1996	6,969	2,248	504	1,796	956	1,451	14		

## Overseas Info for Wood Export

1997	9,501	2,035	1,515	2,016	1,000	1,286	1,149	500	
1998	8,723	1,400	1,300	2,010	1,570	1,100	1,343		
1999	8,851	2,060	998	1,513		662	2,868	750	
2000	11,900	2,090	1,540	755	1,619		5,196	700	
2001	11,966	1,421	1,514	183	1,735		6,413	500	200
2002	12,923	1,612	1,500	170	1,717		6,024	700	1,200
2003	12,910	1,039		495	1,377		8,099	700	1,200
2004	9,379			602	630		7,347	800	
2005	10,346			937	753		8,656		

資料：山林庁、海外資源チーム。

注：\*印は1983-1993年までの累計。

海外植林から収穫された木材の国内への搬入は、ベトナムに進出したC社が2000年から現地でパルプ用のチップに加工し、開始している。2004年には、オーストラリア、中国の植林事業にそれぞれ進出しているA社、F社でもチップの搬入が開始され、海外植林木の国内搬入が本格的に始まった(表2)。

**表2 韓国系企業の海外植林木国内搬入の推移**

搬入年度	植林対象国	事業者	植林年度	伐採面積 (ha)	搬入量 (BDT)
合計				8,413	237,786
2000	ベトナム	C社	1994	498	9,048
2001	ベトナム	C社	1995	1,124	19,110
2002	ベトナム	C社	1996	956	30,970
2003	ベトナム	C社	1997	1,000	30,288
2004	小計			2,335	63,918
	ベトナム	C社	1998	1,077	32,560
	中国	F社	1997	750	7,500

	オーストラリア	A 社	1993	508	23,858
2005	小計			2,500	84,452
	ベトナム	C 社	1999	1,000	31,952
	中国	F 社	1998	500	4,500
	オーストラリア	A 社	1994	1,000	48,000

資料：山林庁、海外資源チーム。

2005年までに、海外植林地で8,413haが伐採され、237,786BDTが搬入された。2004年の植林木の搬入量は63,918BDT、2005年は84,452BDTで、徐々に海外植林木の搬入が増加する傾向を見せている。

韓国の第4次山林基本計画の木材需要量は、2010年では2,975万m<sup>3</sup>だが、2050年には、経済発展によって、1.7倍増の4,952万m<sup>3</sup>へと拡大する見込みである。

その内、国産材の自給率は、2010年の9%から2050年には30%へ増えると予想される。輸入木材の比率は、第4次基本計画で設定した2050年の20%を基準にすれば、国内の木材需要の50%を韓国企業による海外植林から収穫される木材に頼ることになる。

このような前提条件で、海外植林木の国内への搬入は、2010年には200万m<sup>3</sup>と予想され、2050年には国内木材需要の50%にあたる2,450万m<sup>3</sup>へと拡大する見込みである。このためには、100万haの海外植林地の確保が必要であるとされる(表3)。

**表3 韓国の木材需給の展望**

区分		単位	2010年	2020年	2030年	2040年	2050年
総需要量		千m <sup>3</sup>	29,756	35,887	41,850	46,135	49,526
供給量	国産材	千m <sup>3</sup>	2,833	6,030	9,352	11,178	14,857
	輸入木材	千m <sup>3</sup>	24,923	22,857	19,248	14,207	10,169
	海外植林木	千m <sup>3</sup>	2,000	7,000	13,250	20,750	24,500
比率	国産材	%	9	17	22	24	30
	輸入木材	%	84	64	46	31	20

## Overseas Info for Wood Export

	海外植林木比率	%	7	19	32	45	50
	海外植林面積	千 ha	190	418	695	911	1,000

資料： 山林庁、第4次山林基本計画（変更）：2003-2007、2003年。

このような木材需給と海外植林の長期見込み予想から、海外植林による安定した木材供給維持は非常に重要であり、その実効性を高めるには、初期段階の民間部門中心から、公共機関の役割を拡大させる海外植林事業体系の改善が必要である。

長期的観点から、海外植林事業は民間部門の安定した投資意欲を増幅し、海外植林事業に対する積極的な参加と投資が求められる。

(本稿は大韓民国忠南大学校の金 世彬教授、郭 昶鎬博士からの原稿に基づき編集した。)